



Company Profile
Hitachi Building Systems



「人・ビル・社会」に新たな価値を提供し、持続可能な社会の実現に貢献します。

株式会社日立製作所 執行役常務
ビルシステムビジネスユニットCEO
兼 株式会社日立ビルシステム
代表取締役 取締役社長

網谷 憲晴
Noriharu Amiya



私たちは、1920年代にエレベーターの研究開発に着手して以来、日立グループの一員として高品質なエレベーター、エスカレーター、さらには空調機器をはじめとするビル設備や、ビルソリューションなど、ビルを支える製品・サービスを提供し、安全・安心・快適な社会づくりに取り組んでまいりました。

近年、原材料価格や人件費の上昇など、激変する経済情勢や、地球温暖化に伴う気候変動などを背景として、さまざまな社会課題やニーズが生まれています。ビル関連分野においても、オフィス需要の変化に伴うビルの新たな価値創出や、ビル管理業務の効率化、災害に対するレジリエンスの強化、カーボンニュートラルの実現に向けたZEB (Net Zero Energy Building) 化をはじめとするグリーン (環境対応) などへの関心が大きく高まっています。

私たちは、約90万台のビル設備に対し、2,000拠点超の事業拠点をベースに、デジタル技術を活用した保全サービスをグローバルに提供し続けている強みを生かし、ビルの規模や用途に応じたデジタルソリューションを提供することで、ビル

のスマート化、グリーンを実現いたします。2022年には、エレベーターをはじめとするビル設備の遠隔監視・保全サービスの中核を担う「管制センター」を全面刷新し、ビルオーナー・管理者向けダッシュボード「BUILLINK (ビルリンク)」のバージョンアップや、AIを活用してエンジニアによる故障復旧を支援するシステムの導入などを行い、サービスを強化しました。また、2023年4月には、建物の価値を高める先進のデザインとレジリエンス・デジタル機能を備えた標準型エレベーター「アーバンエース HF Plus」を発売しました。さらに、日立グループに属するユニークなビルソリューションプロバイダーとしてのポジションをフルに生かして、お客さまの課題解決に向けた協創に取り組んでおり、さまざまなプロダクトの知見と最先端のデジタル技術を活用したグリーン&スマートビルソリューションの提供を進めています。

これからも私たちは、デジタル・グリーン・コネクティブを変革のドライバーとして、社会イノベーション事業の拡大を図り、持続可能な社会に貢献し、人々の幸せを支えていきます。

●ビルシステム事業概要（日立グループ連結）

売上収益

8,910億円*1

保全台数

約90万台*2

従業員数

約41,000人*2

累計納入台数

175万台超*2

事業拠点数

2,000拠点超*2

*1 2023年3月期

*2 2023年3月時点



ビルシステム事業を通じたSDGsへの貢献



現在、世界では、都市化や高齢化、気候変動など、さまざまな変化に伴い、新たな社会課題が生まれています。その中で、2015年に国連で採択された「持続可能な開発目標 (SDGs)」を達成するための取り組みが世界各地で始まっています。

私たちは、「人・ビル・社会」に新たな価値を提供し、持続可能な社会の実現に貢献する」ことを企業理念として、SDGsの17目標の中で特に大きく達成に貢献できる目標として3つを特定し、継続的に取り組んでいます。



新たな都市に、
最先端の技術で
価値を提供する

撮影協力: SHIBUYA SKY

世界最高速エレベーター*を
生み出した最高水準の技術力



広州周大福金融中心

超高層複合ビル
「広州周大福金融中心」
(中国・広州)

地上1階から95階のホテルロビーまで440mを約42秒で移動。空気抵抗やレールのわずかな段差による振動、騒音などのさまざまな問題を解決し、日立の先進技術と豊富な経験・ノウハウを結集して、分速1,260mの世界最高速エレベーター*を実現しました。

先進のデザインとレジリエンス・
デジタル機能を、より多くの建物へ

標準型エレベーター
「アーバンエース HF Plus」

標準型エレベーター「アーバンエース HF(エイチエフ)」の新シリーズとして、意匠デザインのバリエーション、災害に対するレジリエンス、利用者に安全・安心・快適を提供するデジタル機能、昇降行程・積載質量を強化(プラス)した「アーバンエース HF Plus(エイチエフ プラス)」を開発しました。世界的なプロダクトデザイナーである深澤直人氏監修によるシンプルで上質なデザインが高く評価されています。

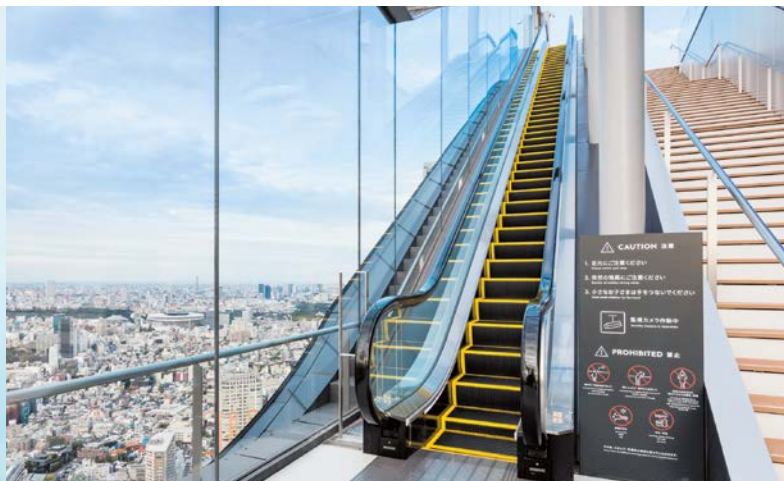


渋谷エリア最高峰のランドマークに
未体験の移動環境を。

渋谷スクランブルスクエア

新しい文化に出会い、世界に発信する「国際観光文化都市」をめざして、大きく変わろうとしている街・渋谷。ひととき目を引く地上高約230mの大規模複合施設が「渋谷スクランブルスクエア」です。渋谷エリアで最高峰を誇る地上47階、地下7階建ての新たなランドマークは、多彩な施設やオフィスで構成され、日本で最大級の屋上展望空間を有する展望施設「SHIBUYA SKY(渋谷スカイ)」は、非日常的な空間演出と、圧巻のパノラマビューで、大きな注目を集めています。

私たちは、屋外型として日本一の高さ*に位置するエスカレーターなど、「SHIBUYA SKY」内のすべてのエレベーター・エスカレーターをはじめ、商業施設、オフィスなどに76台の昇降機を納入し、展望施設における今までにない体験、ビル内そして渋谷エリアの安全・安心・快適な移動環境を支えています。



高品質を支える 最先端の研究・開発・設計・製造拠点

水戸事業所 (茨城)
大石工場 (中国・広州)

長年にわたり、日立の昇降機の研究・開発・設計・製造を支えている水戸事業所。地上高213.5mのエレベーター研究塔「G1 TOWER(ジーワンタワー)」を有し、世界最高速エレベーター*を開発するなど、最先端のモノづくりをけん引しています。製品の設計から試作・評価、加工・組立、検査までを高い精度で行い、お客さまの信頼にお応えします。また、中国などの海外拠点と連携し、グローバル市場の多様なニーズにも対応しています。2020年1月には、中国・広州市にある大石工場に、世界トップクラスの高さ*となる地上高273.8mのエレベーター試験塔「H1 TOWER(エイチワンタワー)」を建設し、研究・開発体制をさらに強化しました。今後も、水戸事業所と大石工場をはじめとする研究・開発・設計・製造拠点を中心に、技術・製品のイノベーションの実現、高品質な製品の提供をめざします。



水戸事業所



日立電梯(中国)大石工場

*2023年8月時点、日立調べ



最先端のデジタル 都市生活の「安全」



「BUILLINK」の利用イメージ

ビル管理業務のDXを実現

ビルオーナー・管理者向けダッシュボード
「BUILLINK(ビルリンク)」

「災害時にビル設備の状況を素早く確認したい」といったビルオーナー・管理者の皆さまの声に応えて開発したのが、ビル管理業務のサポートツール「BUILLINK」です。お手持ちのPC・スマートフォン上で、地震などの広域災害発生時の稼働状況、復旧進捗の把握など、所有・管理するビル設備の各種情報をいつでも確認できるほか、台風接近時などに冠水に備えてエレベーターを上階に退避させるといった運行制御、エレベーター内の液晶インジケータの情報表示の変更など、さまざまな管理業務を遠隔で行うことが可能になり、災害に対するレジリエンス向上と、ビル管理業務のDX(デジタルトランスフォーメーション)を実現します。

迅速な故障復旧を実現

AIテクニカルサポートシステム

AIを活用してエレベーターなどのビル設備の稼働データ解析を行い、万一の故障発生時のエンジニアによる復旧作業を支援するシステムです。ビル設備に故障が発生すると、遠隔監視システムが収集した設備の制御信号データと、エンジニアが現場で確認した現場状況データ、過去の約40万件の故障対応記録のパターンマッチング解析を自動的に行い、故障原因の候補を確率が高い順に並べ、どのような手順で調査を進めていくかをフローチャートでエンジニアに提示することで迅速な復旧を実現します。

技術と充実のサービス体制で 「安心」「快適」を守る

ビル設備を災害やトラブルで止めないために
24時間365日、遠隔で見守り続ける。

管制センター

昇降機をはじめとするビル設備は、都市生活を支える重要な社会インフラです。私たちは、東京と大阪に配置した管制センターを中核として、日本全国約300カ所の事業拠点で、24時間365日、ビル設備の遠隔監視と保全対応を行うサービスネットワークを構築しています。管制センターでは、日本国内で保全契約をいただいている18万台以上のビル設備について、さまざまな稼働データを遠隔でリアルタイムに収集・監視し、データ分析結果を基にした予防保全を実現し、停止時間の最小化を図っています。

2022年には、管制センターのシステムと施設を全面刷新し、ビルオーナー・管理者向けダッシュボード「BUILLINK(ビルリンク)」やAIテクニカルサポートシステムなど、遠隔監視・保全サービスのメニュー・品質を大幅に強化しました。



部品センター

旧機種から最新機種、電子部品から大型部品まで、数万点を東西2カ所に設置された部品センターで常時ストック。メンテナンスデータをもとに必要な部品を最寄りの各サービス拠点に配備しています。



東部部品センター(千葉)

広域災害時対策

万一の大規模地震や風水害などの広域災害に備え、平時から緊急態勢の整備・構築に取り組んでいます。BCP(事業継続計画)を継続的に強化するとともに、被災状況を迅速に把握し、復旧状況を一元管理できる広域災害復旧支援システムを構築、また、具体的な災害を想定した広域災害対応訓練を定期的に行い、BCPの有効性を確認しています。災害時のお客さまへのサービス低下を最小限にとどめ、迅速な救助・復旧対応を実現するため、全社を挙げて取り組んでいます。

本社広域災害対策本部



広域災害対応訓練

末長く使い続けられるビルであるために
「安全」「安心」「快適」をアップデートしていく

日本初の超高層ビルの半世紀に寄り添い
先進のリニューアルで新たな価値を届ける。

霞が関ビルディング

1968年に竣工した日本初の超高層ビル「霞が関ビルディング」。地上147m・36階建て、日本初となるビル内の病院や郵便局、敷地内の緑地など、先進的な開発コンセプトでビルの新時代を切り拓きました。ニーズを先取りしたリニューアルを重ねることで“経年優化”が図られ、竣工から半世紀を経た現在でも約7,000人の就業者が働く先進のオフィス環境を有しています。

豊富なメニューでお客さまに応じたリニューアルを実現

ロープ式/油圧式エレベーターリニューアル

エレベーターは、長期間の使用によって、経年劣化や性能低下が進行します。近年、設置後20年以上が経過したエレベーターのリニューアル需要が高まる中、私たちは、お客さまに応じた最適なリニューアルが実現できるよう、豊富なメニューを用意しています。老朽化したエレベーターの機器を最新のものに更新することで、安全性はもちろん、快適性や利便性の向上を図ることができ、ビル全体の価値向上を実現します。今後も、さらなるメニューの拡充を図り、お客さまのニーズに応えていきます。



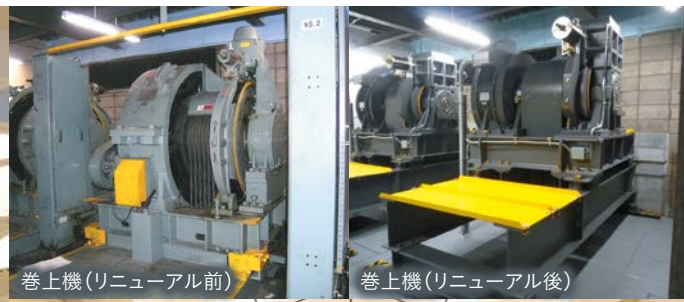
リニューアル前



リニューアル後

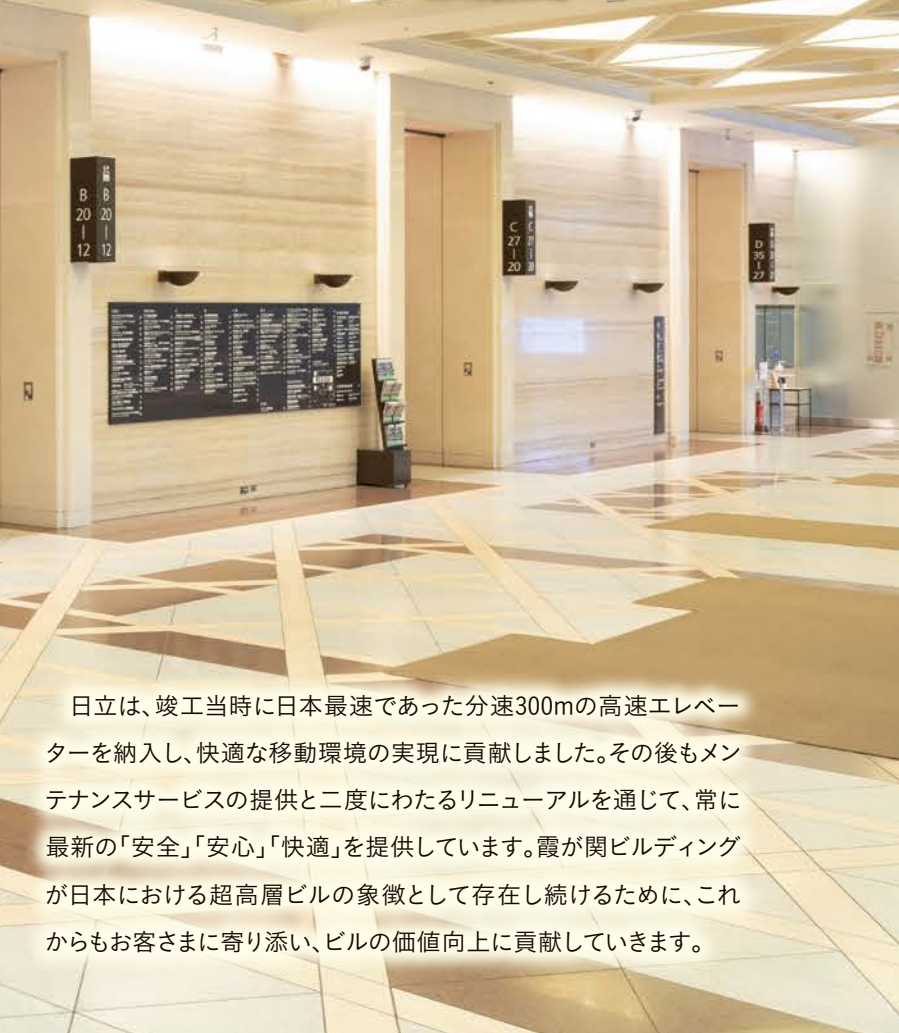


竣工時(1968年)



巻上機(リニューアル前)

巻上機(リニューアル後)



日立は、竣工当時に日本最速であった分速300mの高速エレベーターを納入し、快適な移動環境の実現に貢献しました。その後もメンテナンスサービスの提供と二度にわたるリニューアルを通じて、常に最新の「安全」「安心」「快適」を提供しています。霞が関ビルディングが日本における超高層ビルの象徴として存在し続けるために、これからもお客さまに寄り添い、ビルの価値向上に貢献していきます。

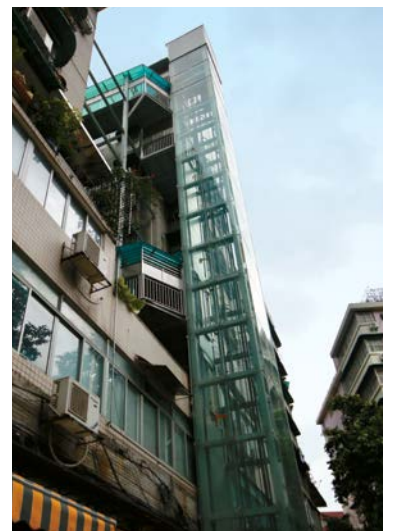


一人一人の声に耳を傾け、豊かな生活を提供する

「後付けエレベーター」プロジェクト (中国)

中国の都市部には、1980～90年代に建てられた古い団地が多数存在しています。約2億人が住むこの住宅は、長い年月を経て、昨今深刻な問題に直面しています。それは「エレベーターがない」ということ。居住者の多くは高齢化が進み、日々の外出さえも困難になる中、早急な対策を求める声が高まっていました。中国政府は、2017年、古い団地へのエレベーターの設置を優遇する政策を開始。これを

受けて、日立電梯(中国)は、2005年から行っていた後付けエレベーターの取り組みを強化するプロジェクトを立ち上げました。居住者一人一人の声に耳を傾け、さまざまな問題に真摯に向き合い、住民の生活改善に取り組んでいます。“真に必要なエレベーター”を追求し続けた努力が今、居住者の生活を豊かにし、一人一人の幸せにつながっています。



ビルを取り巻く新たな社会課題にスマートなソリュー

ビル共通プラットフォームソリューション

DX(デジタルトランスフォーメーション)で、より便利で快適なビルソリューションを提供するのも私たちの仕事です。その中核となるLumada*1は常に最新のデータを把握・分析するためのプラットフォームを構築し、お客さまとの協創を通じて人々のQoL(Quality of Life)、企業価値の向上をめざします。

*1 Lumadaはデジタルイノベーションを加速する日立のソリューションです。「BuilMirai」「BuilPass」はスマートビルを実現するLumadaのソリューションです。

Building IoT Solution

BuilMirai

Integrate operation and usage data

ビル管理の効率化、運営品質の向上

空調や照明、人流データなど、ビルのさまざまな情報を一元化し、ビル管理の効率化、運営効率の向上を実現するビルIoTソリューション「BuilMirai(ビルミライ)」。

ビルが消費する膨大な電力量を把握、管理することが可能で、カーボンニュートラルに向けた取り組みを支援します。



「Hybrid-PCS」で災害に対するレジリエンス向上とグリーン対応を実現

電気自動車からの給電で停電時のエレベーター継続利用を可能にする「V2Xシステム」



近年、広域災害に伴う大規模停電の発生と、それに伴う社会インフラの長時間の機能停止が大きな社会課題となり、エレベーターが不可欠な高層ビルなどにおいては、非常時電源を整備し、災害に対するレジリエンスを強化するニーズが高まっています。

私たちは、広域災害などによって停電となった場合にHybrid-PCS (Power Conditioning System)で電気自動車とビルをつなぎ、エレベーターなどのビル設備の電源を電気自動車からの給電に切り替え、継続利用を可能とするV2X*2システムを開発しました。



*2 V2X (Vehicle to X) : 自動車とさまざまなモノとの接続や相互連携を行う技術の総称。

ーションを



Worker Solution

BuilPass

Integrate worker's activity data

就業者のQoL向上

就業者のオフィス生活を専用のスマートフォンアプリで一元的にサポートする就業者ソリューション「BuilPass」。ビル内のワークスペースの予約、飲食店の利用など、就業者一人一人のニューノーマルの働き方に寄り添ったサービス提供が可能で、QoL向上に貢献します。

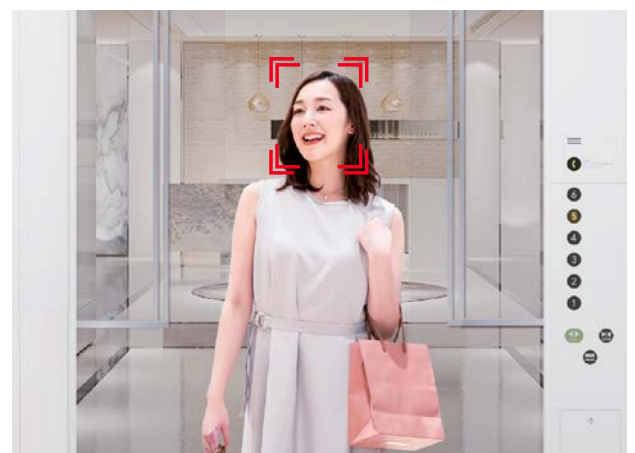
「顔認証」で快適なタッチレス移動を実現

エントランスとエレベーターの「ダブルセキュリティ」

新型コロナウイルスなどの感染対策の一つとして、建物内の共用設備に手を触れずに移動できる、ニューノーマルのマンションセキュリティが求められています。

日立の「ダブルセキュリティ」は、エントランスとエレベーターの2段階の入退管理を、防犯カメラや専用の認証端末の映像を活用した「顔認証」で行えるソリューションです。オートロックや、エレベーターの乗り場ボタン、行先階ボタンに触れることなく、居住階まで手ぶらでスマートに移動することが可能です。

「顔認証」のほか、ハンズフリータグや非接触キーによる「ダブルセキュリティ」もラインアップしており、お客さまのニーズに応じた認証方法で、快適なタッチレス移動を実現します。



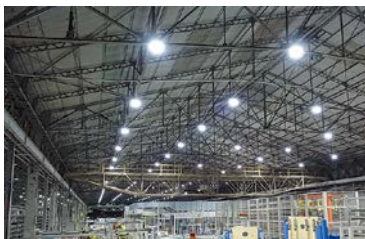
持続可能な社会の実現をめざして、企業活動全体で貢献していきます。

環境へ

事業活動における環境負荷低減。

私たちは、日立グループが策定した環境経営の枠組みに従い、昇降機の設計に「日立グループエコデザインマネジメント指針」を活用した環境配慮設計(エコデザイン)を適用するなど、製品やサービスへの環境配慮を実践しています。また、その活動と成果を日立が評価する「エコファクトリー&オフィス」に、国内外10カ所の私たちの事業所が認定されています。これからも持続可能な社会の実現に貢献するために、積極的な取り組みを行っていきます。

[エコファクトリーセレクト]
水戸事業所（茨城）



照明設備

高効率照明器具への更新(LED化)をはじめ、棟屋上に太陽光発電設備を設置し、省エネルギー化を進めています。

[エコオフィスセレクト]
亀有総合センター（東京）



太陽光発電設備

建屋の屋上緑化を積極的に推進するとともに、太陽光発電設備を設置し、エネルギーの効率利用を実践しています。

業務用車両のEV化



導入済のEVの業務用車両

CO₂排出量削減に向けて、2030年度までを目処に日本国内の業務用車両1,500台のEV(電動車)化を進めています。

社会へ

真に豊かな社会の実現に向けて、多彩な活動を展開。

お客さまへ、製品・サービスの利用者へ、そして地域社会全体へ。私たちは、「誠実」「信義」を基本として積極的な社会貢献活動を行い、良識ある企業市民として真に豊かな社会の実現に向けて尽力します。

海外での活動
「クリスマス・イベント」



日立エレベーターフィリピン社では、フィリピンの子どもたちを保護する施設を運営するThe Children's Joy Foundation, Inc. (CJFI)と協力してクリスマスイベントを開催。学用品を配布、食料や電化製品の寄付を行いました。

安全キャンペーン
「エスターくん劇場」



エレベーター・エスカレーターの正しい乗り方を学ぶ「エスターくん劇場」を全国で開催。1986年の開始以来、お子さま・保護者の方を中心に約21万人にご参加いただいています。

視覚障がい者支援
「盲導犬育成支援活動」



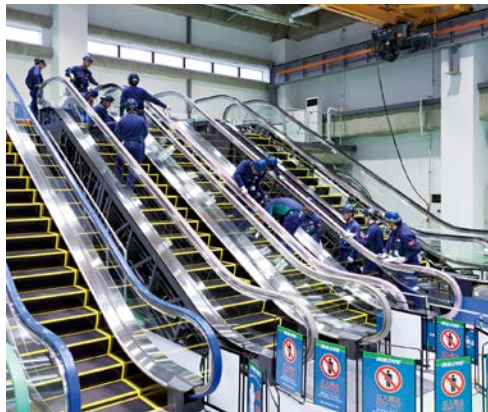
1993年から盲導犬の育成支援活動を展開。趣旨に賛同した社員と当社が毎月同額(各100円)を拠出する「マッチング・ギフト制度」により、盲導犬育成施設のほか視覚障がい者施設等への寄付活動を行っています。

充実の設備とカリキュラムで、未来のプロフェッショナルを育成します。

人財開発センター

実際の建物と同様の環境で、実践的な技能を習得。

実践的な技能の習得と研さんができるよう、各種設備機器の実機を活用して実際の建物と同じ作業環境を整備。目的別・レベル別に体系化した多様なプログラムにより、各種プロフェッショナルを育成しています。世界で活躍できる人財を育成するグローバル研修センターでは、海外規格の昇降機など実習設備を備え、世界基準の技術を習得することが可能です。また2019年には、VR(Virtual Reality)技術を活用した体感型の教育システムを導入しました。



グローバル研修センター(東京)



アジアトレーニングセンター (タイ)

アジア・中東地域における昇降機の品質と安全を守る。

アジア・中東地域の昇降機事業に携わる技術者向けの教育施設「アジアトレーニングセンター」は、アジアにおける日立の昇降機の施工・保全技術と、安全管理に関する教育センターとして、各国の技術者の育成を図っています。アジア・中東地域における業務レベルをより一層向上させ、日立が最も大切にしている品質と安全の提供を今まで以上に確実なものにしていきます。



ビルの未来をお客さまと共に考える “顧客協創型研究施設”

日立ビルソリューション-ラボ



Solution LAB.
日立ビルソリューションラボ

日立ビルソリューション-ラボは、昇降機の新設・保全・リニューアルや、空調、セキュリティなどのビル設備、さらにはスマートビル・ZEB関連をはじめとするグリーン・デジタルソリューションまで、製品・サービス・ソリューションを網羅的に紹介する顧客協創型研究施設です。ぜひ皆様のご来場をお待ちしております。(事前予約制)

History

ビルシステム事業の沿革

日立は、1920年代にエレベーターの研究開発を開始、1932年に本格的に事業化し、常に時代を見据えて、昇降機・ビルソリューションを進化させ続けてきました。約100年にわたる歴史を基盤として、これからも日立は安全・安心・快適にグローバルな社会インフラづくりに取り組んでいきます。

1972

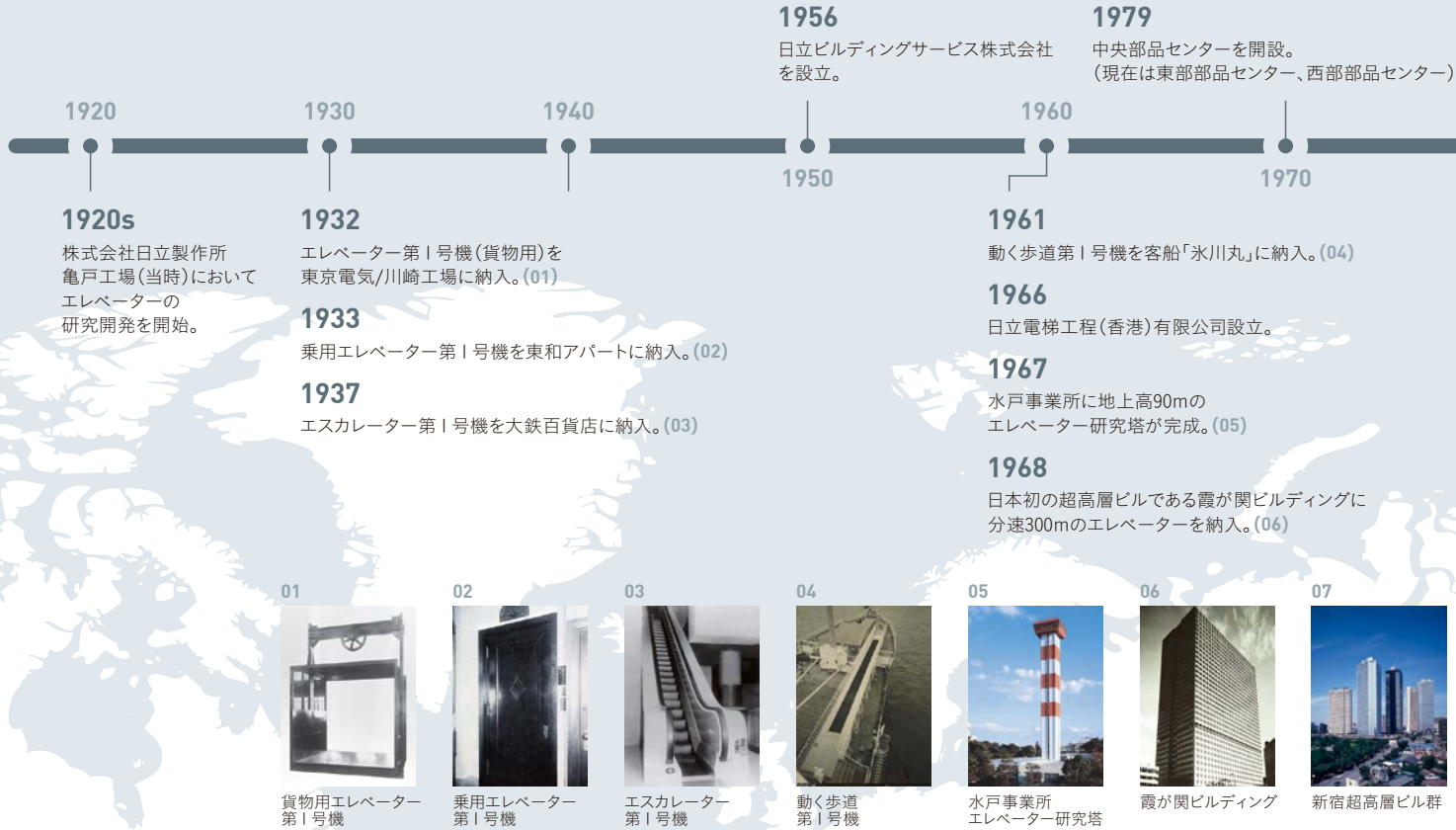
日立ビルディングサービス株式会社から日立エレベーターサービス株式会社に社名変更。
日立エレベーターエンジニアリング(シンガポール)社設立。

1974

新宿超高層ビル群に分速540mのエレベーターを連続納入。(07)

1979

中央部品センターを開設。(現在は東部部品センター、西部部品センター)



Network

国内&海外主要グループ会社・代理店

- 製造拠点
- 日立グループ会社
- 関連会社・代理店
- <>内は所在地を表す

日本

- 株式会社日立製作所 ビルシステムビジネスユニット
- 株式会社日立ビルシステム
- 株式会社日立ビルシステムエンジニアリング
- 株式会社日立ビルシステムビジネスサポート
- 株式会社沖縄日立
- 株式会社エレケア

東アジア

- 日立電梯(中国)有限公司<中国 広州>
- 日立電梯(広州)自動扶梯有限公司<中国 広州>
- 日立電梯電機(広州)有限公司<中国 広州>
- 日立楼宇技術(広州)有限公司<中国 広州>
- 日立電梯(上海)有限公司<中国 上海>
- 永大電梯設備(中国)有限公司<中国 上海>
- 日立電梯(天津)有限公司<中国 天津>
- 日立電梯(成都)有限公司<中国 成都>
- 日立電梯工程(香港)有限公司<香港 九龍>
- 日立永大電梯股份有限公司<台湾 台北>

東南アジア

- Hitachi Elevator (Cambodia) Co., Ltd. <Cambodia, Phnom Penh>
- PT. Hitachi Asia Indonesia <Indonesia, Jakarta>
- Hitachi Elevator Laos Co., Ltd. <Laos, Vientiane>
- Hitachi Elevator Engineering (Malaysia) Sdn. Bhd. <Malaysia, Kuala Lumpur>
- Hitachi Elevator (Myanmar) Co., Ltd. <Myanmar, Yangon>
- Hitachi Elevator Philippines Corporation <Philippines, Manila>
- Hitachi Elevator Asia Pte. Ltd. <Singapore>
- Hitachi Elevator (Thailand) Co., Ltd. <Thailand, Bangkok>
- Siam-Hitachi Elevator Co., Ltd. <Thailand, Chonburi>
- Hitachi Elevator Vietnam Co., Ltd. <Vietnam, Ho Chi Minh City>

南アジア

- Hitachi Lift India Pvt. Ltd. <India, New Delhi>
- Lanka Elevator Engineering (Pvt) Ltd. <Sri Lanka, Rajagiriya>

中東

- Ahmadiyah International Elevator Co. W.W.L. <Kuwait, Kuwait City>
- Universal Engineering Services L.L.C. <Oman, Muscat>
- Petrobuild International Elevators Co. W.L.L. <Qatar, Doha>
- Creative Performance Co. for Elevators. <Saudi Arabia, Jeddah>
- Al-Futtaim Engineering L.L.C. <U.A.E., Dubai>

オセアニア

- Hitachi Australia Pty. Ltd. <Australia, Sydney>

1991

日立エレベーターサービス株式会社から株式会社日立ビルシステムサービスに社名変更。タイにサイアム日立エレベーター社設立。

1995

中国に広州日立電梯有限公司設立。

1996

株式会社日立ビルシステムサービス、日立東ビルシステム販売株式会社、日立西ビルシステム販売株式会社の3社を合併、社名を株式会社日立ビルシステムに変更。

1999

日立ビル施設エンジニアリング株式会社を合併。(存続会社:株式会社日立ビルシステム)

2010

水戸事業所に高さ世界一(当時)の地上高213.5mのエレベーター研究塔「G1 TOWER」が完成。(10)
シンガポールに日立エレベーターアジア社設立。
日立電梯(上海)有限公司に地上高172mのエレベーター研究塔が完成。(11)

2011

日立エレベーターフィリピン社設立。

2012

東京スカイツリー® に高速・大容量エレベーターを納入。(12)

2014

株式会社日立製作所より株式会社日立ビルシステムに国内昇降機事業を移管。
人財開発センターにグローバル研修センターを開設。

2015

株式会社エレテクノス、株式会社ビルテクノスを合併し、株式会社日立ビルシステムエンジニアリングを設立。
日立エレベーターミャンマー社設立。

2016

日立エレベーターカンボジア社設立。
日立エレベーターベトナム社設立。

2017

タイにアジアトレーニングセンターを開設。

2018

日立エレベーターラオス社設立。

2019

広州周大福金融中心に世界最高速*となる分速1,260mの超高速エレベーターを納入。(13)

1980

1990

2000

2010

2020

1981

東京研修所(現・人財開発センター)を開設。

1985

東京/大阪に管制センターを開設。

1987

日立水戸エンジニアリング株式会社設立。

2003

日立ビルソリューションラボを開設。
六本木ヒルズ森タワーにダブルデッキエレベーターを納入。(08)

2007

広州日立電梯有限公司が日立電梯(中国)有限公司に社名変更。

2008

日立リフトインド社設立。
上海環球金融中心に世界最大級の超高速ダブルデッキエレベーターを納入。(09)

2020

日立電梯(中国)有限公司に世界トップクラス*の地上高273.8mのエレベーター試験塔「H1 TOWER」が完成。(14)
日立水戸エンジニアリング株式会社を合併。(存続会社:株式会社日立ビルシステム)
株式会社日立製作所が日立永大電梯股份有限公司を連結子会社化。

2022

株式会社日立製作所が永大機電工業股份有限公司を完全子会社化し、日立永大電梯股份有限公司に社名変更。

*2023年8月時点、日立調べ

08



六本木ヒルズ森タワー

09



上海環球金融中心

10



G1 TOWER

11



日立電梯(上海)エレベーター研究塔

12



東京スカイツリー®

13



広州周大福金融中心

14



H1 TOWER

Company Profile 会社概要

- **名称** 株式会社日立ビルシステム ● **本社所在地** 〒101-8941東京都千代田区神田淡路町二丁目101番地(ワテラストワー) 電話03-3295-1211(大代表) 〒120-0002東京都足立区中川四丁目16番29号(亀有総合センター) 〒312-8506茨城県ひたちなか市市毛1070番地(水戸事業所) ● **設立** 1956年10月1日
- **資本金** 51億509万1千円(全額 株式会社日立製作所出資) ● **代表者** 代表取締役 取締役社長 網谷 憲晴 ● **売上高** 2,715億円(2022年度)
- **従業員** 約8,700名(2023年3月時点) ● **事業内容** 1.エレベーター、エスカレーター、駐車場設備、冷凍空調装置、電気設備、自動ドア、その他ビル設備に必要な機器の製造、販売、据付、保守、改造修理、更新及び設計 2.各種ビル設備の監視、制御及びビル管理 3.土木及び建築工事業 4.冷凍空調装置並びにそれらの運転制御盤、遠隔監視装置、冷媒回収装置の製造 5.建築物の設計及び監理 6.ビル設備機器、防犯・防災機器及び駐車場設備の賃貸並びにリース 7.不動産賃貸業 8.データベース、ダイレクトメール、テレマーケティング、インターネットを構成要素とするダイレクトマーケティング手法を用いたセールスプロモーションの企画・立案・実践代行及び各種市場調査 9.警備業 10.工業所有権及びノウハウの実施許諾 11.前各号に関連又は附随する一切の事業



日立ビルシステムブランドチャンネル

 株式会社日立ビルシステム

〒101-8941 東京都千代田区神田淡路町二丁目101番地(ワテラストワー)
電話 03-3295-1211(大代表) www.hbs.co.jp

